

## 「第2回 名蓋川復旧対策検討会」（令和4年11月2日開催）指摘事項と対応について

番号	委員名	意見内容	対応（事務局案）	備考
1	田中委員	○氾濫解析の結果としては概ね良いと思うが、感度分析を実施した氾濫解析と痕跡水位が合うなど、総合的な判断とした方が良い。	○被災流量の算出において、ネックポイントとなる国道347号名蓋川橋の橋梁部粗度係数を $n=0.035$ （計画値）と $0.030$ （現況推定値）のパターンで氾濫解析を実施しました。 ○氾濫解析による氾濫域に大きな違いはなく、浸水深における実績値と計算値の比較などを踏まえ、被災流量を決定しました。	資料2 P4
	福島委員	○被災流量の算出においては、現地を見ると、粗度係数 $0.035$ は大きく $0.030$ が妥当と感じるが、実際の管理上の値として $0.035$ となるのはやむを得ないと思う。 ○痕跡調査は精度が高くなりについたため、被災流量の妥当性については複数の結果をもとに総合的に判断したとまとめた方が良い。		
2	佐々木委員	○全川に渡って築堤するとなると、掘削土の有効活用や盛土材の確保なども検討しながら計画した方が良い。	○実施設計にあたっては、盛土量を把握した上で、土壌改良等も検討しながら経済性も考慮しながら進めて参ります。	
3	郷古委員	○大江堀の流量が大きいことから、用排水路上流などの浸水状況を確認したい。	○用排水路が名蓋川へ与える影響を確認するため、それぞれの洪水到達時間について整理しました。 ○結果は、洪水到達時間を考慮した場合においても、被災流量は $Q=58\text{m}^3/\text{s}$ となりました。	資料2 P5
	板屋部長	○大江堀の流量が比較的大きい。ピーク時差などの影響を考慮した上での整理が必要。		
4	風間座長	○地元に対して、抜本的な対策は堤防が絶対壊れない、溢れない、ということではないことを、誤解されないように丁寧に説明していく必要がある。	○引き続き、地元自治体をはじめとして地域住民への丁寧な意見交換、説明を行って参ります。	
	佐藤委員	○抜本的という言葉に注意していただき、これで大丈夫だと思わないよう、リスクを受け入れてもらうためにしっかり説明してほしい。		